

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	西成区
学校名	南津守小学校
学校長名	高松 幸織

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南津守小学校では、第6学年 68名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・平均正答率は、国語において大阪市平均より7.0ポイント、全国平均より8.7ポイント下回り、算数において大阪市平均より10.0ポイント、全国平均より11.4ポイント下回る結果であった。
- ・平均無回答率は、国語では全国平均より0.6ポイント下回ったが、算数では1.9ポイント上回った。正答率、無回答率ともに、昨年度より改善傾向にある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「目的や意図に応じ、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」という趣旨の記述式設問では、正答率が全国平均56.6%に対し本校60.3%と、3.7ポイント高い。一方、資料の活用では13.2ポイント、集めた材料の分類では10.9ポイント全国平均を下回っている。今後も全国平均以上をめざし、粘り強く取組を続けていく。

[算数]

图形をみて答える設問については、全国平均との差が3~5ポイントと比較的少ないが、式を選んだり立てたりする設問での正答率が14~20ポイント低い。また、短答式で12.6ポイント、記述式では12.4ポイント全国平均を下回っており、書くことへの苦手意識の克服が課題である。

質問調査より

- ・「自分には、よいところがあると思う」に肯定的に答えた児童の割合は、「どちらかといえば当てはまる」を含めると全国平均と大きな差ではなく、前年度より改善した。また、「困りごとや不安がある時に、先生や学級にいる大人にいつでも相談できる」への肯定的回答は全国平均より12.9ポイント高く、教職員と信頼関係を築きながら学校生活を過ごしている様子がうかがえる。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」への肯定的回答は全国平均より2.7ポイント高いが、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方へ気付いたりできている」への肯定的回答は全国平均より10.9ポイント下回る。自分の考えをもつことはできいても、周囲とすり合わせながら深めるまでには至っていない点は課題である。
- ・生活習慣に関し、一日当たりのSNSや動画の視聴時間が3時間以上と答えた児童は38.5%で、全国平均20.7%よりかなり多い。家庭学習の時間や授業中の集中力にも影響することから、自己調整力の育成にも努めたい。

今後の取組(アクションプラン)

- ・安心して学校生活を送ることができるよう、複数で見守る体制を整える。
- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、各教科において話し合い活動を積極的に実施する。
- ・情報を読み取って考えをまとめたり、友達と考えを交流して自分の考えを広げたりする活動を増やす。
- ・基礎学力定着に向け、放課後学習や区の学力向上施策活用をすすめる。
- ・ICT機器を、資料提示にとどまらず、交流のツールとして活用する。

【 全体の概要 】

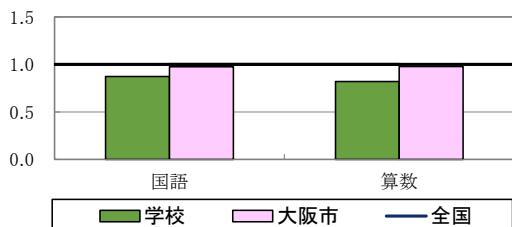
平均正答率(%)

	国語	算数
学校	59	52
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

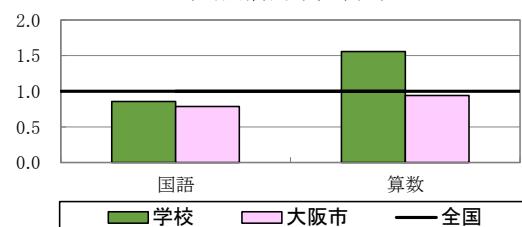
平均無解答率(%)

	国語	算数
学校	3.6	5.3
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



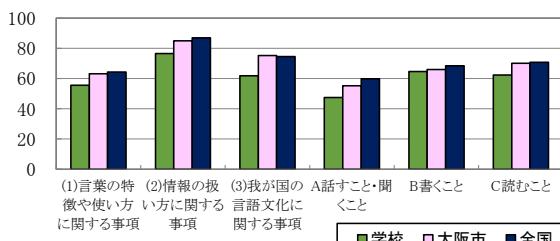
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	4	55.5	63.1	64.4
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	76.5	85.0	86.9
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	61.8	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	47.5	55.3	59.8
B 書くこと	2	64.7	65.9	68.4
C 読むこと	3	62.3	70.1	70.7

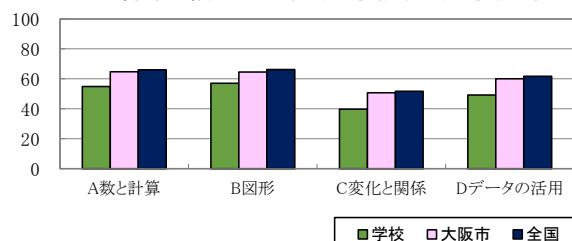
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	54.9	64.8	66.0
B 図形	4	57.0	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	39.7	50.8	51.7
D データの活用	4	49.3	60.0	61.8

国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



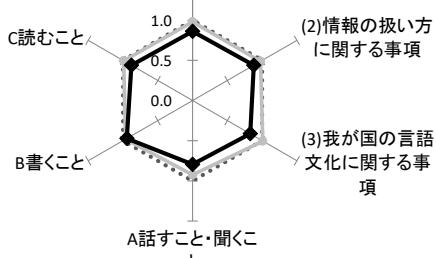
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

(1)言葉の特徴や
使い方に関する
事項

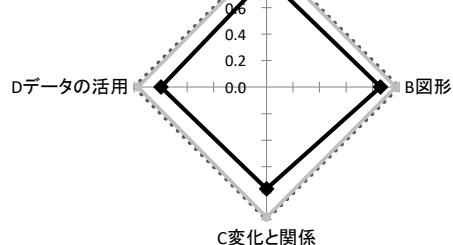
..... 全国
— 大阪市
— 学校



算数
領域別正答率
(対全国比)

A数と計算
B図形
C変化と関係
Dデータの活用

..... 全国
— 大阪市
— 学校



児童質問より

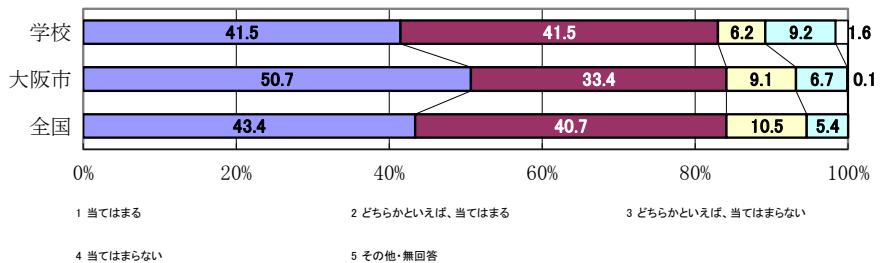
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号

質問事項

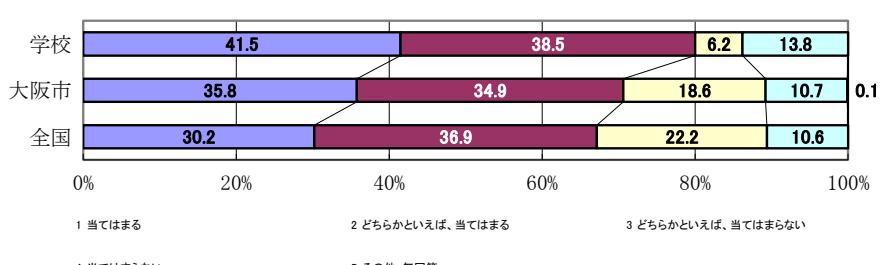
9

自分には、よいところがあると思いますか



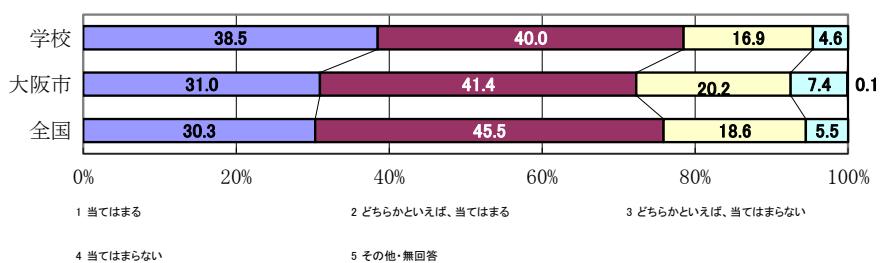
14

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



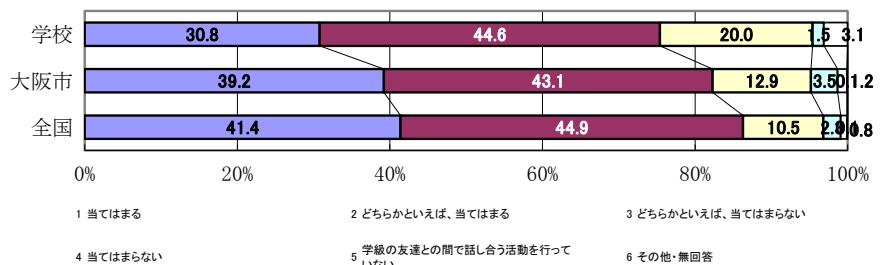
17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



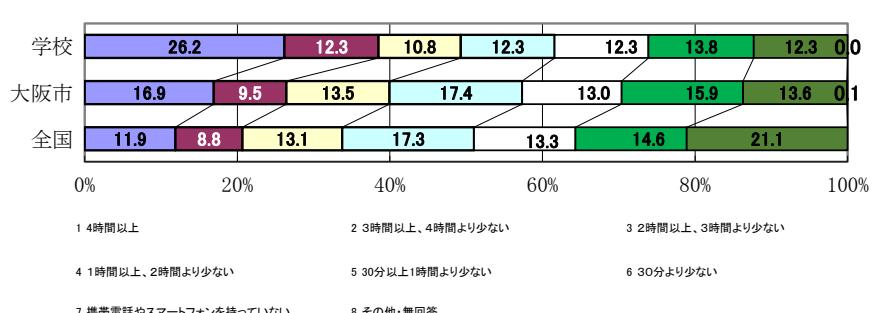
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



6

普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



学校質問より

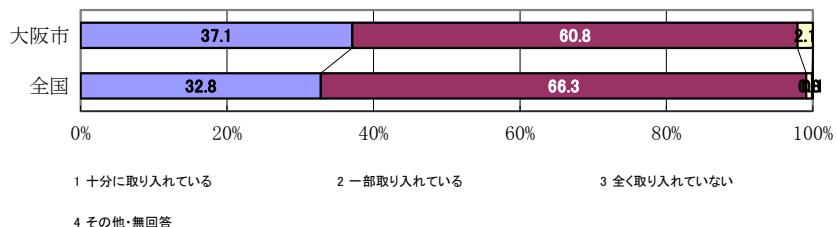
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

11

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

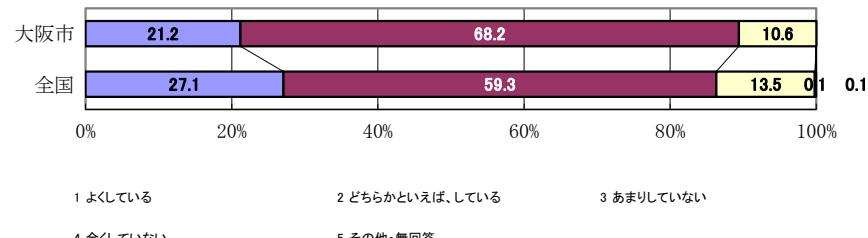
学校 「一部取り入れている」を選択



18

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

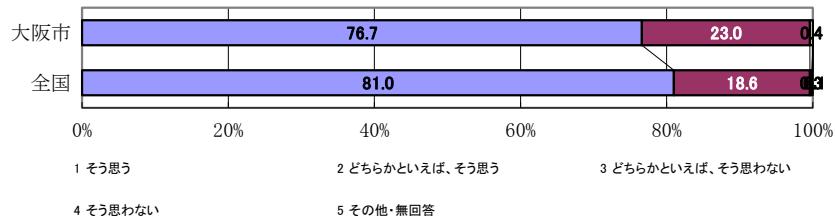
学校 「よくしている」を選択



21

各児童の様子を、担任や副担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしていますか

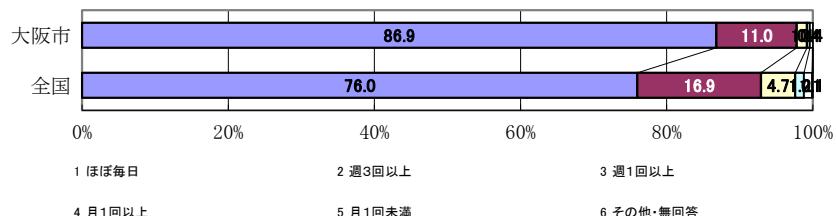
学校 「そう思う」を選択



53

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



34

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択

